

会 議 概 要

- 1 審議会 安曇野市総合計画審議会 (第1回)
- 2 日時 令和4年2月8日(火) 午前10時3分から午前11時50分まで
- 3 会場 安曇野市役所3階 全員協議会
- 4 出席者(敬称略) 赤羽高明、赤羽史夫、内山吉次、内田友宏、岡江正、木村晴壽、栗田晶、小岩井清志、高橋秀生、高橋良光、高山はるみ、長崎大幸、花岡正明、樋口嘉一、藤松兼次、藤本豊、柳澤賢次、鷺澤暢夫
- 5 市側出席者 太田市長、高嶋政策部長、丸山政策経営課長、赤沼政策経営課長補佐、米山主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人0人 記者2人

協 議 事 項 等

1 開会(政策経営課長)

2 委嘱書交付

3 市長あいさつ

市では平成30年に前期基本計画を定めた。その後、コロナの問題、DX、SDGs、ゼロカーボンなどの状況変化が生じてきている。こうした時代の変化に即しつつ、将来のために何をすべきか、委員の皆様のご見識を賜りたい。

安曇野市は、移住者にも人気があり、まだまだ発展する余地がある。一方、知名度はあるが、その内面については知られていないとも感じる。また、今、市に住んでいる皆様一人ひとりが「住んでいてよかった」と実感いただいているか、そういった意味でも改善の余地はあると思う。

今回は、後期基本計画の策定となるが、社会情勢の変化等も踏まえ、基本的な方針にあたる部分も含めてご議論願いたい。

4 会長・副会長の選出

- ・会長は、松本大学 木村晴壽氏が選出
- ・副会長は、区長会 鷺澤暢夫氏が選出

(会長あいさつ)

これまでも自治基本条例の制定、地方創生の問題など安曇野市の取組に携わってきた。その間、安曇野市の行政が少しでも良い方向にいくよう気にかけていたが、中々うまくいっていないようにも感じている。

自治体の総合計画は、どこも似たものが並ぶが、それぞれ市町村は個性をもっている。この難しい社会情勢をにらみながらも、安曇野市の個性が反映された計画にできたらと思う。良い計画に仕立てたいので、よろしくご審議のほどお願いします。

(副会長あいさつ)

市内83区の区長が参加する区長会から参加する。総合計画の策定は、難しい問題となるが、しっかり話し合いながら進めていきたい。

5 諮問

※諮問の内容は別紙のとおり

6 会議事項 【発言者 ◎会長 / ・委員 / ⇒政策経営課】

(1) 総合計画審議会委員の任務等について

「資料1」に沿い、総合計画審議会の任務等について説明（政策経営課）

【質疑応答】

- ◎本日は初回の会議ということで市からの全体説明が中心となる。疑問点や確認しておきたいことなどあればご発言願う。
- ・審議会の定員は、条例上25名。まだ空きがあるが追加公募など委員選出の予定はあるか。
⇒公募のお申込みは3名であった。今のところ、追加募集の予定はないが、今後必要が生じれば募集する。
- ・現行計画の進行状況によって、このまま進めてよいもの、見直すべきもの、また状況変化により対応すべきものなど確認していく必要がある。策定までの作業の道筋をあらかじめ示してほしい。
- ◎その点については、この後の会議資料で触れられているようなので後ほど。また、改定にあたり確認すべきものは、今後の審議会のなかで協議し必要に応じて反映させていく。

(2) 第2次安曇野市総合計画 基本構想・前期基本計画について

「資料2」に沿い、現行計画の概要を説明（政策経営課）

【質疑応答】

- ◎法律の義務化はなくなった基本構想の策定根拠は。また、かつて議決事件であったが、議決は必要か。
⇒策定根拠は、自治基本条例。議決は、議決事件を定める条例で、基本構想と基本計画両方の議決が必要。
- ・現行計画の検証はこの審議会で行うのか、それとも既に資料が出来ているか。
⇒進捗点検は毎年行っている。加えて、次期計画策定のタイミングとなるため、現状分析のサポートを民間シンクタンクに委託する。この状況について次回会議で報告する。
- ◎検証資料については、今後の話をしていく上で欠かせない。この審議会が必要部分について協議していくこととする。
- ・シンクタンクに委託する意図はなにか。
⇒市だけではなく、類似業務の受託実績があり、ノウハウの蓄積のある事業者により幅広くサポートしていただきたい、というもの。良い計画をつくりたい。
- ・現行計画の施策体系は理解したが、施策の推進にあたっては他の施策への関連が出てくるはず。施策間連携や他の施策への影響度合いなどの観点で整理された資料はあるか。限られた原資でやるので相乗効果をもたせる必要がある。
⇒そうした観点で整理した資料はない。作りこみ方をどうするか。施策同士の波及効果は、大事な視点と思う。今後一緒に検討をお願いしたい。
- ◎現行計画では基本施策単位でしっかり分かれているが、ほとんどの施策は当然他の施策に影響してくる。それを図などで表現するのは難しいかもしれないが、施策間の影響も検討の前提と

して進めていくのは良いと思う。

(3) 策定方針について

「資料3」策定方針の内容を説明（政策経営課）

【質疑応答】

- ・資料3のスケジュール、総合計画審議会はどこに書かれているか。
⇒開催期日は、まだ明確にスケジュールに落とせていない。次回にはお示ししたい。
- ・資料3の主な検討事項に、経済・産業振興の最適化といった観点も加えたらどうか。現在の状況が好ましいかたちになっているか確認しながら検討すべき事項と思う。
- ◎資料3の主な検討事項は例示となっている。今後の検討のなかで必要なものは、都度出してください。
- ・審議会の進め方の確認となるが、
審議会での検討事項は市でカテゴライズして提示するのか。
かなり膨大な作業になるので今後の開催日程はどうなのか。
個別テーマの検討のための部会の開催は可能か。
⇒検討事項は、たたき台を作って示したいと思っている。
開催日程は、5回開催の予定だが、策定状況によって増減する。また、審議会の日程以外にも個別にメールやお電話でご意見いただいた場合も対応させていただく。
部会については、いまのところ開催予定はない。
- ・PDCAの観点から、問題点の洗い出しは重要。この作業を丁寧にやって骨子を作ったほうがよいと思う。市の職員も、この計画策定以外にも多くの仕事があるはずなので、広範な意見を求めながら進めた方がよいと思う。
- ◎部会での集中審議は可能となっているので、今後必要性に応じて開催するものとする。また、「こういう視点での議論はどうか」など提案があれば、審議会前に市に伝えて、調整いただくのもよい。
- ・今の総合計画で問題と思うのが、目標達成のために何をどうこなしていくのか手段が明確に書かれていない。ここはコンサルではなく審議会で、やらないといけない部分と思う。また、基本施策もどの地方にも当てはまる内容に留まっている。安曇野市版になっていない。以前、国交省関係のしごとに携わった際、同省では当初、日本を4つの地域に分けていたが、その後8つとなった。それだけ分けないと対応に矛盾が生まれてしまうということ。施策同士の関係性を洗い出し、記号ではなくその意味をもっと追求していく必要がある。
基本目標のなかで一番重要なのは、安曇野の良さ、暮らし続けていきたいという愛着、誇りの部分と思う。市民という大きな言葉ではなく実際の生活の話である。以前、家が寒いと80歳の方からリフォームの依頼を受けたが、資金はどうか、安曇野市で住み続けていけるのか。これだけでも福祉と環境づくりの問題はつながってくる。この安曇野だからこそやらないといけないこと。そしてその関係性を明確にするべき。
- ◎現状だと、具体的な部分は実施計画に委ねているということであろう。
- ・今後、議論をすすめていくなかで予算とのかかわりはどうなるか。施策の優先順はつけるか。
⇒5年先までの計画になるので予算との関係ははっきり書けないという認識でいる。総合計画と予算との絡みは、実施計画で1年目は完全に一致させているが、2.3年目の見通しですら難しくなってきたように感じている。施策は、横並びが基本となるが、後期5か年で取り組む重点的なテーマは設定したい。そこには予算配分が厚くなるものとする。

◎優先順位は、事細かに定めるのは無理かもしれないが、重点的にやってほしい内容は審議会として意見が出せる。また、予算は市議会との関係もあるので、ここで決まった通りにならないということはある。

・数値目標は、進捗度合がわかりやすく良いと思うが、数値化されているものに集約される。新しいアイデア、取組ができるような構造になっていない。例えば、人口減少対策に関する施策としては、「学校教育の充実」が関係してくるが、この数値目標は、不登校の割合とボランティア登録数となっている。人口を増やすためには、こうした範囲内ではなく、もっと具体的な目標、アイテムが必要と思う。既定のものでなく新しいものを追加する検討をすべき。

◎こうした数値目標の追加含め、今後審議会でも協議していくことになる。

・現行計画の検証について、シンクタンクへの委託も第三者の客観的評価となればそれ自体はよい。ただし、庁舎内での評価も必要であり、今回は総合計画なので全庁的な検証が必要。成果が出た部分よりもできなかった部分が大事となる。進捗が悪かったとしても担当が悪いわけではなく、目標自体が妥当でなかったかもしれない。そこの確認があって次のプランにつながっていく。次の審議会までをお願いしたい。

⇒市内部でも行政評価を行っている。次回の審議会には資料を作成し報告する。

・現行計画の目標は間違っていないと思うが、間違ったスタンスに立ってしまっている。目標をきめたらどうやってそこにいくのか、発想の転換が必要では。

例えば、先ほどの教育の施策では、去年市内の学校にエアコンをつけたが、これは暑さ対策だけでなく安曇野の子どもたちの学力向上につながる。やがては、安曇野の評価につながる。省エネの家への補助金があるが、これは、生活・学習など他の施策にも影響する。イギリスの事例では、市民の安全・安心のため家を改修する施策を進めていた。これは、産業革命当時の住宅を景観、文化財として保存するための施策でもあった。施策ごとの取組の積み重ねでだめならば、スタンスを変える必要がある。

◎次の議題のまち・ひと・しごとの方では、実績はあがらない KPI が多かった。KPI による課題把握はできても、この設定が難しい。そもそも目標をクリアして何になるのかわからない指標も並んだりする。審議会ですべて点検はできないが、そうした点も念頭に置いてみていく必要がある。

(4) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について

「資料4」「資料4-1」の内容を説明

【質疑応答】

◎人口減少の問題は、地方創生でさんざん取り上げてきたが、目に見える成果が出てこない。これは大きなテーマになると思うので今後議論していく。

7 閉 会 (副会長)

(以 上)